

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟
令和7年度 第二回理事会 議事録および活動報告書

開催日時・場所

- ・ 日時：2026 年 3 月 20 日（金祝）10:00～11:30
- ・ 場所：オンライン開催（zoom）
- ・ 出席者：【理事】石田直章、徳永大作、柿崎裕彦、井岡雅子
（欠席）遠藤華英（委任あり）
【監事】中元伊知郎
【強化委員】吉田進、吉田寿子
【事務局】吉田彫子、岡本孝義、佐藤勇介
- ・ 議事運営役員
議長（進行）：石田理事長
議事録作成人：佐藤勇介
議事録署名人：柿崎理事、井岡理事

1. 組織統治および役員人事

理事会において、連盟の持続的な発展と次世代への円滑な承継を目的とした重要な役員人事が承認された。

役員交代および新体制

- ・ **新理事長の選任:** 石田直章現理事長が、規約に基づく年齢規定（4 月で 70 歳）により退任。後任として、柿崎理事が 2026 年 4 月 1 日付で新理事長に就任することが承認された。
- ・ **新役職「会長」の設置:** 競技のさらなる普及と本法人のさらなる発展のため、新たに会長職を設置し、衆議院議員の園崎弘道氏に就任いただくべく提案があり承認された。園崎氏は、トレーニング拠点の立ち上げ当初から連盟を支援しており、今後は政治的・社会的な側面から連盟を支える。

決議事項：

- ・ 会長は理事等の役員ではない
- ・ 業務執行権限、議決権を持たない
- ・ 任期は定めない
- ・ 無報酬とする

上記を記載した承諾書を園崎氏に送付し、サインいただく。

- ・ **特任理事の設置:** 石田理事長は退任後、議決権を持つ「**特任理事**」として組織に残り、引き続き意思決定に参画することが承認された。なお初代理事長の中元氏にも

意向を伺ったところご本人の意向で引き続き監事をお務めいただくこととなった。

- ポイント：理事長退任者の処遇

以下の理由から今回は「特任理事」とした。

目的：議決権を持ちかつ格が他の「理事」と同等ではない役職を設定する

「顧問」の場合：一般的に理事会議決権を持たないことが多いため見送り

「特任理事」の場合：これも一般的には議決権を持たない役職となること
が多い

- 結論：当連盟では議決権を持つ理事であることを明記することを条件とし、「特任理事」を設定することとした

- **P-United への参画:** パラリンピック競技 8 団体が連携する「P-United」の代表者会議には来年度より井岡理事が連盟代表として出席し、情報還元と連携強化を図ることが承認された。

2. 2025 年度報告および 2026 年度方針

強化部（担当：吉田進）

吉田進・強化委員長（ハイパフォーマンスディレクター）の下、組織を 6 つの部会（選手強化、コーチ管理、記録管理、動作解析、ルール文書管理、選手選考）に再編した。

- **FTEM システム:** JPC が推奨する枠組みに基づき、選手を T1～M レベルまでカテゴライズ。
- **実績:** カイロ世界選手権への派遣（11 名）、岡山・名古屋での記録会開催。
- **新施策:** 地方の若手選手を支える「コーチサポーター」制度の新設。
- **情報管理:** 選手の特徴や成長記録、またコーチの活動記録の管理のため、カルテを導入すべく準備中。個人情報にあたるため慎重に運用する。（アプリ等想定）

事務局（地域／広報マーケティング）

①地域組織育成委員会（担当：岡本孝義）

岡本氏を中心に、日本パラスポーツ協会の助成事業を活用した地域拠点作りを推進した。

- **キャラバン活動:** 岡山、山口、愛知県等で実施。山口では「山口パラパワークラブ」が設立された。大会運営は負担が大きいため、体力づくり名目でのトレーニングクラブ発足を第一歩に普及を目指す。各地域のキーマンとつながることが肝要。
- **未開拓地域への展開:** 佐賀、香川等の四国・九州地域での体験会・研修会を実施。「ユニバーサルトレーニング（筋肉は裏切らない）」を切り口に、障害の有無を問わないコミュニティ形成を支援した。
- **今後の展望:** 5 ヶ年計画をモデルに、毎年ステップアップしていくようサポート。

②広報マーケティング委員会（担当：吉田彫子、佐藤勇介）

2025 年度は「自力でのスポンサー獲得」を最優先課題に掲げ、従来のロゴ露出型営業か

ら、パラ・パワーリフティング独自の価値（共生社会の体現）を提案する営業スタイルへの転換を図った。

2025 年度 営業・協賛実績

- 総協賛相当額: 4,650,000 円（9 社・団体）
- 純現金協賛額: 2,550,000 円（6 社・団体）※純現金協賛を増やすことが課題
 - 主な支援企業：第一実業（石原選手所属先）、マツシマホールディングス、VEEMO
- 2026 年度 活動方針および新組織図: 2026 年度は、これまでの準備フェーズを終え、事業の「実装」と「収益化」を加速させる。
スポンサー獲得目標: 現金協賛額 5,000,000 円 を目指す。

【ご意見】競技自体をもっと知ってもらう工夫を。胸で止めるなどのルールを簡略化して健常者にも入ってきやすいイベントや大会にするなどはどうか。（柿崎）

SNS コンテンツにもできる可能性があり、今後取り組んでいく。（吉田彫子）

③新組織図（2026 年度～）

事務局・運営機能を以下の 4 つの部会に明確に分離し、責任所在を明確化する。

部署名	役割・ミッション
選手強化部	競技力向上の専門性による団体価値の体現。
大会競技価値創造部	大会実行委員会として、パラ・パワーリフティングの価値を生む場の創出。
地域育成部	地域基盤の育成による団体の未来の土壌作り（岡本氏担当）。
共創パートナー戦略部	事務局機能（法務・財務）に加え、営業・広報による価値の拡散。

事務局運営の効率化

- 営業担当の交代: アジアパラ競技大会準備業務での名古屋転居により佐藤勇介が一時的離脱。後任として、営業経験とスポーツ領域に知見のある朝日崇晴氏を業務委託で採用し、フットワークの軽い営業体制を維持する。
- DX 推進: 強化事務（助成報告・事務作業）の負担を軽減するため、システム連携による誰でも運用可能な体制を構築する。

【ご意見】PU でも事務周りのことは効率化したい意向があるため連携してはどうか。（井岡）

PU 全体として実現するのは時間を要する印象があるためまずは独自で進めてみたい。（吉田彫子）

3. 新旧理事長ご挨拶（今年度のまとめ、新年度の抱負・方針）

石田現理事長

任期の中では選手やコーチを支えることを中心に活動してきたが、連盟組織そのものを支えるということがあまりできなかったことが心残り。今後はそこにも関わっていきたい。

柿崎新理事長

これまでの医師としての仕事や活動の中で組織や団体を纏めることも少ないながらしてきたが、不協和音を不協和音にしないよう動くなどして解決してきた。

国内、国際的にと両方のアプローチから選手強化をし、ひいてはパラリンピックのメダル獲得につなげることで注目度を増やしていきたい。

以上

議事録承認者

令和8年4月3日

柿崎 裕彦



井岡 雅子

